

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	沖縄県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	那覇市立 松島中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数 33
学級数	5	5	5	2	17	
生徒数	191	194	183	6	574	

研究の概要

1. 研究主題

基礎学力の定着を図る指導の工夫
～個に応じた指導を通して～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

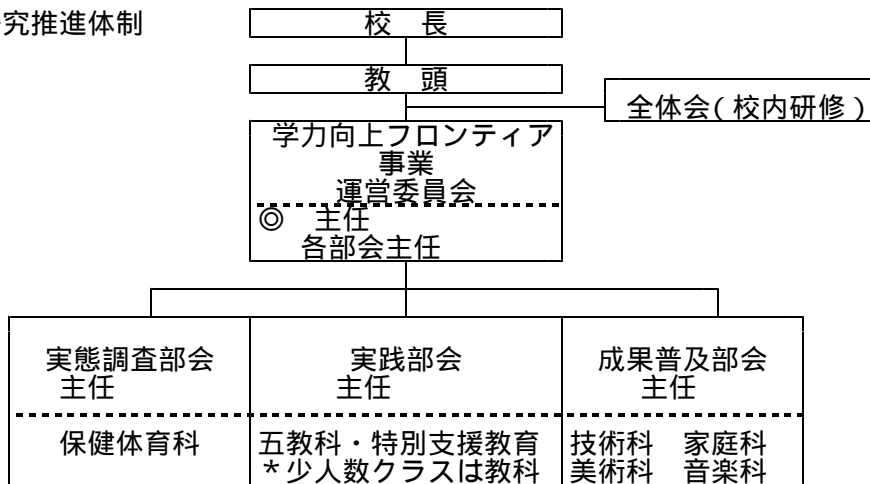
実施教科は、国語、社会、数学、理科、英語の5つの教科に焦点化し、実施学年は、教科の特質を考慮し、教科に一任した。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>(国語科) テーマ 伝え合う力を高める学習指導法の工夫 ～相手意識・目的意識を明確にした書く学習を通して～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仮説 相手意識・目的意識を明確にし、学習指導法を工夫すれば「伝え合う力」が高まるであろう。 ・ 研究内容・方法 誰に書くか・何のために書くかを明確にする。 <p>(社会科) テーマ ～「技能・表現」の能力を高める指導の工夫～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仮説 生徒が動いて学ぶ授業の取り組みで、技能・表現高まるであろう。 ・ 研究内容・方法 多様な課題とグループ活動を実践させ、発表の場を設ける。 <p>(数学科) テーマ ～少人数指導の工夫改善を通して～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仮説 少人数指導に、習熟度別指導を取り入れ生徒の実態に応じたきめ細かな指導を行えば、基礎的・基本の定着を高めることができるだろう。 ・ 研究内容・方法 クラス編成・指導体制の工夫、生徒の習熟度に応じて問題の簡略化・精選等を行い、わかる授業、問題が解ける授業を展開する。 <p>(理科) テーマ ～目的意識をもって実験観察(授業)に取り組む生徒の育成を通して～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仮説 目的意識をもたせ、自ら考え判断・修正できる生徒を育成することにより多角的な見方や考え方が身に付くであろう。 ・ 研究内容・方法 形成関係図を作成して、授業の流れを構築する。 平田式簡易アナライザーを用い、個に応じた支援と形成的評価を行う。
--------	--

平成 15 ・ 16 年度	<p>(国語科)</p> <p>テーマ 前年に同じ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仮説 自己の感動、経験を文章で伝え合えば視点の広がりが出てくるであろう。文章表現を工夫する学習活動、及び、発表の場を多く設定することで「伝え合う力」が育つであろう。 ・ 研究内容・方法 授業の中に「書く」場面を設定し、思考力を鍛える「学習ゲーム」を取り入れ「書く」ことへの抵抗を取り除く。 各単元の終了時に、短作文を積み重ねることで、スキルアップを図る。 相互評価の時間を持ち、相手の文章に対し、着眼点・言葉の選び方・表現の工夫などを伝え合いながら、自分の表現に活かす態度を養う。
	<p>(社会科)</p> <p>テーマ 前年に同じ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仮説 「伝える」学習により技能・表現力を高めることにつながるであろう。 ・ 研究内容・方法 グループ学習における様々な形態を（形式を）工夫する。 授業時におけるワークの作業学習、単元毎の確認テスト、自己評価チェック、定着課題プリントの作成。
	<p>(数学科)</p> <p>テーマ 前年に同じ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仮説 授業時のクラス編成や指導体制の工夫で個々の生徒の実態把握に努める事により学習に遅れがちな生徒に対して問題の簡素化や精選などを行うことによって分かる授業を展開するとよいであろう。 ・ 研究内容・方法 観点別分野を視野に入れた形成テスト（基礎・発展）の解答の変化を参考に補修的問題を実施しその過程を見る。
	<p>(理科)</p> <p>テーマ 前年に同じ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仮説 個に応じた指導の過程と評価の一体化を通す事により、理科の基礎・基本的事項の定着が図られるであろう。 ・ 研究内容・方法 目的意識をもって実験・観察に取り組む「ワークシート（実験書）」の作成をおこなう。 指導にあたって理科教師同士協議・実践することにより、生徒への指導の明確化を図る。 「学習のまとめ」及び「観察・実験レポート」を生徒自ら作成することによって、「基礎的・基本的事項」の定着の把握をする。
	<p>(英語科)</p> <p>テーマ 実践的なコミュニケーションを高める学習指導法の工夫 ～音声指導の工夫を通して～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仮説 フォニクスアルファベットやフォニクスを体系的に指導すれば、未習の語でも音と綴りを結びつけて読めるようになったり、音読練習で英語を読むことに自信を持てば、日々の授業に真剣に取り組むであろう。 少人数の利点を生かし、リズムチャンツで楽しく繰り返し音読練習したり、ALTの活用を多く取り入れてきめ細かな指導を行えば基礎・基本の定着がはかれるであろう。 一斉授業の後、生徒同士が確認、練習しあえる場としてグループ学習を取り入れることによって、生徒の学習意欲が高まり基礎・基本の定着がはかれるであろう。 ・ 研究内容・方法 フォニクスの指導（1学年） 音読指導（1学年）・read and look up リズムチャンツ（少人数学級） ペアワークの工夫（標準学級）

(3) 研究推進体制



実態調査部会（保健体育科職員で構成）

生徒の実態を調査し、本校の課題を把握することで、研究の方向性を確実に定めることを目的とした研究を進める（アンケート調査、集計、考察等）。

実践部会（国語科、社会科、数学科、理科、英語科職員で構成）

国語、社会、数学、理科、英語を中心とした実践的な研究を進めることを目的とした研究を進める（授業研究会の実施、教材・教具の開発等）。

成果普及部会（技術家庭科、美術科、音楽科職員で構成）

本校の研究の成果を他校に普及させるための準備を行うことを目的とした研究を進める（ホームページの作成等）。

平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

- (1) 各部会（各教科）の研究テーマ報告、中間報告実施に伴い、部会全体の進捗状況の共有が刺激になり、学力向上フロンティア事業に対する取り組みがより活性化した。
- (2) 検証授業を実施することにより、各教科とも様々な指導法・学習形態の工夫などより一層の研究が進んだ。
- (3) 補習指導・基礎学力強化学習会等の実施に伴い、生徒の声を繁栄した教材・教具の工夫・開発ができた。
- (4) ホームページの作成・発信に伴い、各部会の研究のデータ・整理が整った。。

2. 今後の課題

- (1) 「学習定着を図るための工夫」については家庭学習の内容・家庭学習帳の活用に関する調査及び分析が不十分であった。次年度の比較資料の為に今年度中の調査を考慮する。
- (2) 学力向上フロンティア事業を、より地域と保護者・小学校の連携を密にするための概要説明が十分でなかった。
- (3) 各部会（調査普及部会）の年度計画の速やかな実施と、調査分析を踏まえた発展的研究の推進。

学力把握のための学校としての取組

教研式基準学力検査CRTを行っている。それにより全国の生徒との学力を比較し学力向上を目指す。

達成度テストを行っている。これにより沖縄県と那覇市・本校の学力を比較し学力向上を目指す。

各種検定を奨励。これにより各自の教科における能力を把握することが出来る。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

夏季基礎学力強化学習会開催（社会・理科・英語・国語）

社会科	実施学年	全学年	各学年全 2～3 回
	日時	1 年生	曜日 8 / 25、26 午前 9：00～10：00
		2・3 年生	曜日 8 / 5、6、7 午前 8：30～10：00
	場所	各学年教室	
	内容	1 学年 2 コース設置（章別）2・3 学年 1 コース設置（基礎基本）	
	対象者	1 学期評価 2～1 の生徒	
理科	実施学年	全学年	各学年全 3 回
	日時	曜日	1 年 7/24、8/26、8/27 2 年 8/8、8/19、8/29 3 年 7/28、7/30、8/4 全学年午後 2：00～3：00
	場所	理科室	
	内容	全学年、理科実験の基本操作・理科用語理解・ワークシート併用	
	対象者	理科 1 学期評価 2～1 の生徒	
英語	実施学年	第 3 学年	全 3～5 回
	日時	曜日	8/5,6,7 時間 12：00～1：30
	場所	体育館（ミーティングルーム）	
	内容	英語基礎	
	対象者	希望者	
国語	実施学年	第 3 学年	3 回
	日時	曜日	8/7,8 時間 9：00～12：00 2：00～3：00
	場所	進路室	
	内容	作文の書き方・入試対策・文検・漢検対策 夏季課題学習のアドバイス・進路相談	
	対象者	希望者 実践研究（検証授業）	

社会科公開授業

10月15日（水）3年4組 「わたしたちの生活と経済」
グループ学習を活用して

数学科公開授業

10月20日（月）3年3組 「2次方程式」
少人数指導の工夫

道徳公開授業

10月21日（火）3年2組 「他者の立場を尊重し、受容する心」
「心のノート」を活用したディベート学習

その他研究成果普及のため

- (1) HPの開設発信・・・平成15年12月26日発信
- (2) リフレット作成・・・平成16年4月配布予定
- (3) フロンティアティーチャー活動・・・年3回行われる3校連携での発表
- (4) 校内研修における中間報告会・15年度各部会報告会の設置
- (5) 学力向上ブロック会・那覇地区大会での発表

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無